

「見えないだけ」牟礼慶子（押さええておきたい詩の知識！）

①一連

空の上には

もっと青い空が浮かんでいる

波の底には

もっと大きな海が眠っている

胸の奥で

ことばがはぐくんでいる優しい世界

次の垣根で

蕾をさし出している美しい季節

少し遠くで

待ちかねている新しい友だち

②対句

③体言止め

③体言止め

③体言止め

②対句

①二連

あんなに確かに在るものが

まだここからは見えないだけ

④省略

①連れん……物語でいうところの段落。

基本的に行間が空いているので、その

切れ目で判断しよう。

②対句……似たりズム・似た言葉で構成するテクニク。読むリズムを生

み、インパクトを出す。

③体言止め……体言（ものや場所、人の名前）で終わらせるテクニク。

もののイメージを頭に浮かびやすくする。

④省略……続けるべき言葉をあえて削るテクニク。省略した続きを読者

に想像させ、詩の世界を広げる。

へこの詩の特徴、読み取り

①口語自由詩である

・口語詩……普段使っているような話し言葉⇨親しみ

⇨
・文語詩……百人一首のように「けり」などを使っている⇨格調高さ

⇨
・自由詩……音数が自由なタイプ

⇨
・定型詩……五・七・五……など、音数が決まっているタイプ

⇨
・散文詩……普通の文章と同じように書かれているタイプ

②何が「見えないだけ」？ **👉作者のメッセージ！**

・確かに在るもの……
……が引いてある五つ↓今は眼には見えてない

・見えてないだけ（で、
……のようないろんな世界が広がっているよ）

・色んな経験をして
……に出会ってごらん！⇨新学年としてガンバ（）